

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 10 月 31 日現在

機関番号：14401

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2014～2015

課題番号：26570005

研究課題名(和文) 照葉樹林文化圏の近代化過程における食品の保存方法に関する複合的研究

研究課題名(英文) Multidisciplinary research on food preservation in the modernization process of the laurel forest cultural area.

研究代表者

住村 欣範 (Sumimura, Yoshinori)

大阪大学・グローバルコラボレーションセンター・准教授

研究者番号：30332753

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：照葉樹林文化圏の近代化過程においては、食品保存の技術は、地域の資源や味、文化的な必要性と複合したものから、食品の「安全」だけに基ついた単機能的なものに変化していることが分かった。また、食品の多様化と流通網の複雑化が起こる中で、単機能的な食品保存は、流通システムの中で局地的に分断された文脈で開発され、総体的な「安全」に寄与しない場合があることも分かった。

以上のような傾向は、本研究課題の対象地域である雲南、ベトナム北部、日本に共通してみられるが、国際的な食料供給体制の中で、準周縁的な地位に置かれている地域に、より顕著であることも理解できた。

研究成果の概要(英文)：In the laurel forest cultural area, food preservation had multiple function and meanings. But in the modernization process of it, the technology of the food preservation becomes mono-functional based the meaning of "food safety."

And in the process of diversification of the food and the complexity of the food chain, mono-functional food preservation is developed on a locally divided context of food distribution system. And sometime it doesn't contribute to the holistic "food safety."

These tendency are common to Yunnan, Northern part of Vietnam and Japan. But they are more is remarkable in the area that is peripheral in the global food system.

研究分野：人類学

キーワード：食品保存 照葉樹林 近代化 安全 フードチェーン 技術 ベトナム 人類学

1. 研究開始当初の背景

本研究が対象とする、照葉樹林文化帯においては、自然環境と人間とのやり取りの間に、食に関する基層文化が生み出され、食品の保存とその他の機能を兼ね合わせた技術が開発されてきた。代表的なものは、大豆発酵食品や魚醤などである。

しかし、近年は、近代化の過程において、食品保存の技術、食品の多様化および流通、食品保存の意味の3つの枠組みにおいて、大きな変化がみられるようになってきている。

現在の日本における食品保存の基本は、冷凍・冷蔵であるが、ベトナムなどの当該地域における冷凍・冷蔵は、貧弱で徹底していない。一方で食品流通の範囲は拡大し続けており、流通の拡大とインフラの整備の間で、至る所で齟齬が起こってきている。

このような状況は、



Hani woman preparing preservative food for new year season

2. 研究の目的

本研究課題は、照葉樹林文化帯を起源とする食品の保存について、現地調査を行ってデータを収集し、フード・セキュリティとフード・セーフティを巡る近代化の視点からこれを比較分析しようとするものであった。

本研究課題が対象とする照葉樹林文化帯における複合的な保存の技術の現状について調査を行うとともに、近代化の過程において、食品保存の技術、食品の多様化および流通、食品保存の意味の3つ枠組みにおいてみられる大きな変化について明らかにすることを目的とした。

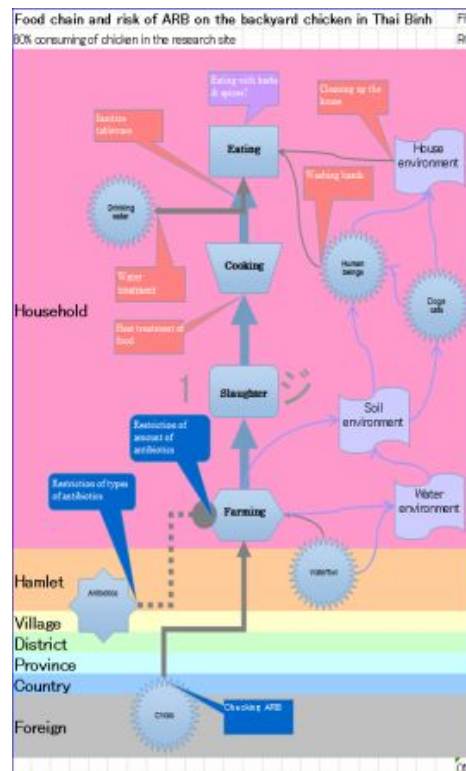


食品の生産、加工、流通段階で使われる抗菌剤

本研究課題を通して、ベトナム北部、雲南、日本を調査対象地として地域間の比較研究を行ない、同時に上述の3つの枠組みの相互関連について考察し、食を通して近代の人間の生のあり方の一端を明らかにすることを目指したものである。

3. 研究の方法

ベトナム北部、雲南、日本において現地調査を行ってデータを収集し、近代化の視点からこれを比較分析した。また、4つの動物性食品に関するフードチェーンを実地調査によって地域ごとにモデル化し、フードチェーンのどのようなポイントでどのような技術が用いられているかを明らかにした。



フードチェーンの例(北部農村のバックヤードチキン)複数のポイントで抗菌剤が別々の目的で、別々の主体によって使用されている可能性がある。

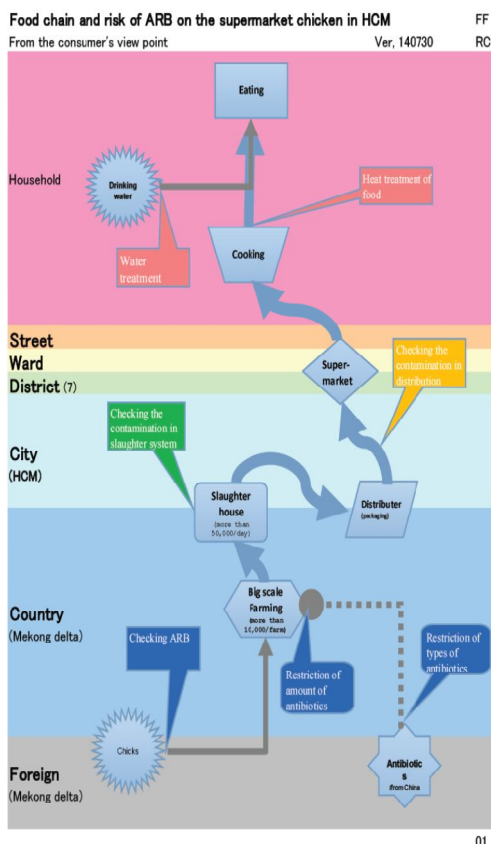
4. 研究成果

照葉樹林文化圏の近代化過程において、食品保存の技術は、地域の資源や味、文化的な必要性と複合したものから、食品の「安全」だけに基いた単機能的なものに変化していることが明らかになった。

また、食品の多様化と流通網の複雑化が起こる中で、単機能的な食品保存は、流通システムの中で局地的に分断された文脈で開発され、総体的な「安全」に寄与しない場合があることも解明された。

生産や流通に携わる当事者は、抗菌剤を流過程の食品に保存用として使用するなど、

従来とは異なる「保存」の方法を実践するようになってきている。本研究課題の対象地域である雲南、ベトナム北部、日本に共通してみられるが、国際的な食料供給体制の中で、準周縁的な地位に置かれている地域に、より顕著であることも明らかになった。



フードチェーンの例（南部の大規模食品流通システム）生産、流通、消費の主体、生産現場における資本、農民、技術者のかい離が見られ、その結果、食品の安全がブラックボックス化している。

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 3 件)

Ngoc Anh Luu-dam, Ban K Ninh and Yoshinori Sumimura、Ethnobotany of Colorant Plants in Ethnic Communities in Northern Vietnam、Anthropology、査読有、4-1、2016、6p

Ngoc Anh LUU DAM, Huong Van BUI, Yoshinori SUMIMURA、The indigenous knowledge of The Hani group: The Utilisation and Conservation of Natural Forest Resources at Y Ty Commune, Bat Xat District, Lao Cai Province, Vietnam、Health Environment、査読有、2、2016、13-32

Atsushi Hinenoya, Suong Thi Thu Tran, Ngu Trong Nguyen, Ha Cong Nguyen, Doan Duy Le Nguyen, Phuong Hoai Hoang, Yoshinori Sumimura, Yoshimasa Yamamoto and Shinji Yamasaki、Isolation and molecular characterization of extended-spectrum  $\beta$ -lactamase (ESBL) producing Escherichia coli from animals used in food industry in Mekong Delta, Vietnam、Journal of Food Protection、査読有、80、2016、19p

〔学会発表〕(計 1 件)

住村欣範、ベトナムにおける食の「安全」の生成、日本安全学教育研究会、2016年8月21日、大阪大学医学部銀杏会館

〔図書〕(計 1 件)

河森正人、栗本英世、志水宏吉 編集（住村欣範一部分担）大阪大学出版会、共生学が創る世界、2016、184p-192p

〔産業財産権〕

出願状況（計 0 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

(1) 研究代表者

住村 欣範 (SUMIMURA, Yoshinori)  
大阪大学 グローバルコラボレーションセンター・准教授  
研究者番号：30332753

(2) 研究分担者

思 沁夫 (SU, Qinfu)  
大阪大学 グローバルコラボレーションセンター・特任准教授(常勤)

研究者番号：40452445

(3)連携研究者

中山 達哉 (NAKAYAMA, Tatsuya)  
大阪府立大学 環境生命科学研究科  
特認助教 (常勤)・研究者番号：80552158